平成２６年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（Ｎｏ.７）

平成２６年８月１１日
鳥取県病害虫防除所

1　情報の内容

主要品種（ひとめぼれ・コシヒカリ）等、大部分のほ場では、穂ばらみ期～穂ぞろい期が曇雨天で経過している。穂いもちの発生が懸念されるため、穂揃い期防除を直ちに行う。

2　発生状況等

（１）ブラスタムによる葉いもちの感染好適日又は準感染好適日は、８月４日に広域で出現した（表１）。

（２）８月７日現在、大部分のほ場で葉いもちの病勢は止まっているが、中山間地等の常発地の一部および平坦地の多発ほ場の一部では、感染能力を保ったいもち病斑が確認されている。

また、台風の接近にともない、８月８日から１１日が雨天で経過したため、葉いもちの病勢回復が予想される。

表1　ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	岩井	青谷	智頭	倉吉	米子	下市	境	茶屋
7/31	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/2	－	－	－	－	－	－	－	○	－
8/3	－	－	－	－	－	－	－	－	●
8/4	－	－	○	○	－	－	－	－	●
8/5	－	－	－	－	－	－	○	－	－
8/6	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/7	－	－	－	－	－	－	○	－	－
8/8	－	－	－	－	－	－	－	－	－
8/9	－	－	－	－	－	－	－	－	●
8/10	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注）●感染好適日、○準感染好適日

（３）主要品種（ひとめぼれ・コシヒカリ）等、大部分のほ場では、穂ばらみ期～穂ぞろい期が曇雨天で経過している。

3　防除上注意すべき事項

（１）ひとめぼれ・コシヒカリ等、早生品種栽培ほ場

大部分のほ場が穂ぞろい期を迎えているので、穂ぞろい期防除の徹底を図る。降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後約３時間経過すれば、降雨の影響は少ない。特に、粉剤、水和剤などを用いて穂ばらみ期防除を行ったほ場で、防除から1週間以上経過している場合は、直ちに防除を行う。

（２）きぬむすめ・日本晴等、中生品種栽培ほ場

これから出穂期を迎えるので、穂ばらみ期および穂ぞろい期の２回、いもち病単剤又はこれらを含む混合剤の粉剤、水和剤などを用いて防除を徹底する。なお、葉いもちの病勢が止まっていないほ場では、治療剤、予防・治療剤あるいはこれらを含む混合剤を用いて葉いもち防除を行う。

（３）防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。特に、葉いもちの追加防除を行ったほ場では、農薬の総使用回数を超えないよう十分注意して穂いもち防除を行う。